

団体道場紹介



道場所感

陽武館 市村道場
館長 市村 剣舟

私が陽武館道場を開設して、本年で十九年になりました。居合と剣道と古武道の己の修行の為に稽古場として建設に着手しましたが、出来上がった道場は東西六間、南北五間の、床面積三十坪、天井高さ二間の堂々たる稽古場になってしまいました。この当時は私も不動産業を経営していましたので、稽古は夜の、週三回がやっとでしたが、今まで学んだ各種の武道を当道場で稽古し指導する積りでした。しかし段位の認定を受けるには各武道の専門団体に加盟しなければならず、その時間と費用は、私にとっても門人にとっても、大きな負担でありました。この様な時期に「大日本武徳会茨城県支部長」で在った（故人）高野芳夫先生に出会い、剣道、居合、古武道その他の武道もみなこの団体に所属していると云うことでありました。私は、これこそが本道の武道の専門団体であると確信し、即入会致した次第です。本会の誠に素晴らしい処は、各種目の武道の先生方が集まり、組織を形成

し、日本はもとより世界各国で指導、普及に努めていることでもあります。この様な団体は他には存在しません。武徳会では各種の武道の允許を行っています。これは大変重要なことであります。武士の時代であれば剣術も居合も同じ刀剣の術であり何等区別される理由はありません。私は、刀の打ち振りは刀即竹刀、竹刀即刀であり柄を握る手の内は全く同じであると感じています。剣道には相手がいますが、居合は敵を仮想して稽古をします。しかし「気剣体」の一致にあつては何等変わるものではありません。このことを最大の眼目としてこれからは修行に励んでいきたいと思っています。私見を勝手に述べさせて頂きました。最後に一般社団法人「大日本武徳会」のますますのご発展とご繁栄を心よりご祈念申し上げます。

道場開き

日本戸山流 名古屋支部
会長 成田 守

日々怠り無く修行しています。

新しい歴史の幕開けと共に新たな道を切り開くことになった常安道場名古屋支部、稽古にこなければ味わえない感動と興奮、日本武道の気迫と緊張感を糧にさらなる進化を目差す。

無邪気に笑顔がはじける幼児もすっかり若き剣士に大黒柱の風格をにじませている。